

# 水辺の 生物



## タカブシギ (鷹斑鳴)

チドリ目シギ科

写真提供：堀内洋助氏

**体** 長約 21cm、頭と背、翼は目立たない灰褐色で、白い斑点が点在する。腹から下は白く、脇には褐色の斑点がある。砂泥地を歩きまわり、水の中に入っていくため、長くて丈夫な脚をもっている。水中や泥の中に潜っている餌をとるため、くちばしは細くて長く、ちょうど箸やピンセットの役割を果たしている。

ユーラシア大陸の高緯度地方に繁殖分布し、冬はアフリカ、インド、東南アジア、オーストラリアにまで渡る。日本周辺では千島でも繁殖する。日本には主に旅鳥として春と秋に飛来し、小数が関東以南で越冬する。8月から11月の秋期に数多く見られる。

水田や埋立地の水たまりなど、泥の多い水辺に生息するが、海岸の干潟に出ることは少ない。両脚を交互にして足早に走り歩きながら餌をあさり、時折、ピョコリと尾端を振り動かす。昆虫類や甲殻類、クモや小貝類などをくちばしで探ったり、ついばんだりして食べる。

繁殖期は5～7月。繁殖期には1 km<sup>2</sup>ほどの範囲の縄張りを持ち、オスは空高く舞い上がり、盛んに鳴きながら、ジグザグ型の求愛行動を行う。一夫一妻で繁殖する。1巣の卵数は通常4個で、両親が抱卵し、約3週間で孵化する。

同じシギ科のクサシギによく似ているが、クサシギより小形であること、背中に白斑が多いため、より淡色に見えること、脚のオリーブ色がクサシギより淡いことなどで区別することができる。ピッピッピッと鳴く。

取材協力：鈴木弘行氏

参考文献：『原色日本野鳥生態図鑑（陸鳥編）』 中村登流・中村雅彦共著 保育社 1995年

『日本産鳥類図鑑』 高野伸二著 東海大学出版会 1981年